

# 目指せ「サクラジャパン」…W杯、東京五輪 女子高生ラグビー 気合十分

## 八戸の3人、国体予選へ汗

目指せ「サクラジャパン」！八戸市内の高校ラグビー部に所属する女子部員たちが、全国高校女子合同チーム大会・コベルコカップ(31日～8月2日、長野県菅平高原)と8月の国体東北予選(8月25、26日、宮城県石巻市)へ向け猛練習に打ち込んでいる。選手たちは大会出場を機にさらなる飛躍を期し、来年のラグビーW杯、2年後の東京五輪出場を目指す。  
(若松清巳)

全国4ブロックの選抜チームがリーグ戦で戦うコベルコカップ育成リーグ(15人制)。県ラグビーフットボール協会によると、東北選抜には本県から7人、うち八戸市から4人が参加予定だ。国体予選(7人制)の本県選抜は10人で、県内登録女子選手の中から今後、選考するという。

八戸学院光星高校の女子選手は、FW宮城マリヤ選手(3年)とFW鈴木光利選手(2年)の2人。ラグビーを始めたのは高校入学後だが、宮城選手はニュージールランドへのラグビー留学の経験がある。

18日、同市多賀多目的運動場で行った練習では、男子選手や系列校の八戸学院大学女子ラグビー部員と同じメニューに取り組んだ。宮城選手は男子部員のコンタクトを振り切る力強さを発揮、鈴木選手は相手を寄せ付けない俊敏な走りを見せた。同校ラグビー部の安部恒俊監督(29)は2人だけの女子選手について「宮城選手は気持ちと体が強い。

鈴木選手は素直で真面目。どちらも伸びしろが大きい」とみる。「トライした1人だけでなく、ボールをつなぐ全員が主役」とラグビーの魅力を話す宮城選手。卒業後も競技を続け「日本代表入りが目標」ときっぱり。鈴木選手は「自分より大きい相手へのロータックルは勇気がいる」と言いつつも「身体能力をアップし、ゲームの鍵を握る存在になりたい」と意欲的だ。

八戸工業大学第一高校の女子選手はBK藤春柚香選手(3年)だけ。小学3年生からスクールに通い、競技経験は豊富だ。福岡勇太監督(33)は「スキルは高い。男子とのハードな練習をこなし、筋トレも欠かさない努力家」と言う。



【写真上】男子のコンタクトを見せる鈴木選手(右端)



【写真中】宮城選手(右手前)を振り切り駆ける

【同中央】鮮やかなステップ

26日は30度を超す猛暑の中、同市の八工大二グラウンドで男子と同じ練習。3時間近い練習でも終始切れのある走りを見せた。「コベルコカップでは存在感を示し、本県代表として国体にも出たい」と目を輝かせた藤春選手。「卒業後も競技を続け、フル代表を目指す」と決意を語った。